

中活 人口定着

みょうこうしちゅうしんきよてん 妙高市中心拠点地区

(新潟県妙高市)

- 計画期間 令和4年度～令和8年度
- 面積 111ha
- 交付対象事業費 2,668.7百万円
- 市人口 30,630人

ポイント

- ・中心市街地における公共・民間所有の低未利用地の活用
- ・子育て、文化、交流など都市機能の集約による市民の利便性向上及び街中の回遊性の向上

地区概要

古くから地域交通網の拠点で、市民生活を支える拠点地区としての役割を担ってきたが、モータリゼーションや人口減少により商業施設や事業所の郊外移転が進み、中心拠点としての求心力が低下している。

目標

- ・都市機能の集約と暮らしやすさの向上
- ・中心拠点の活力向上

指標

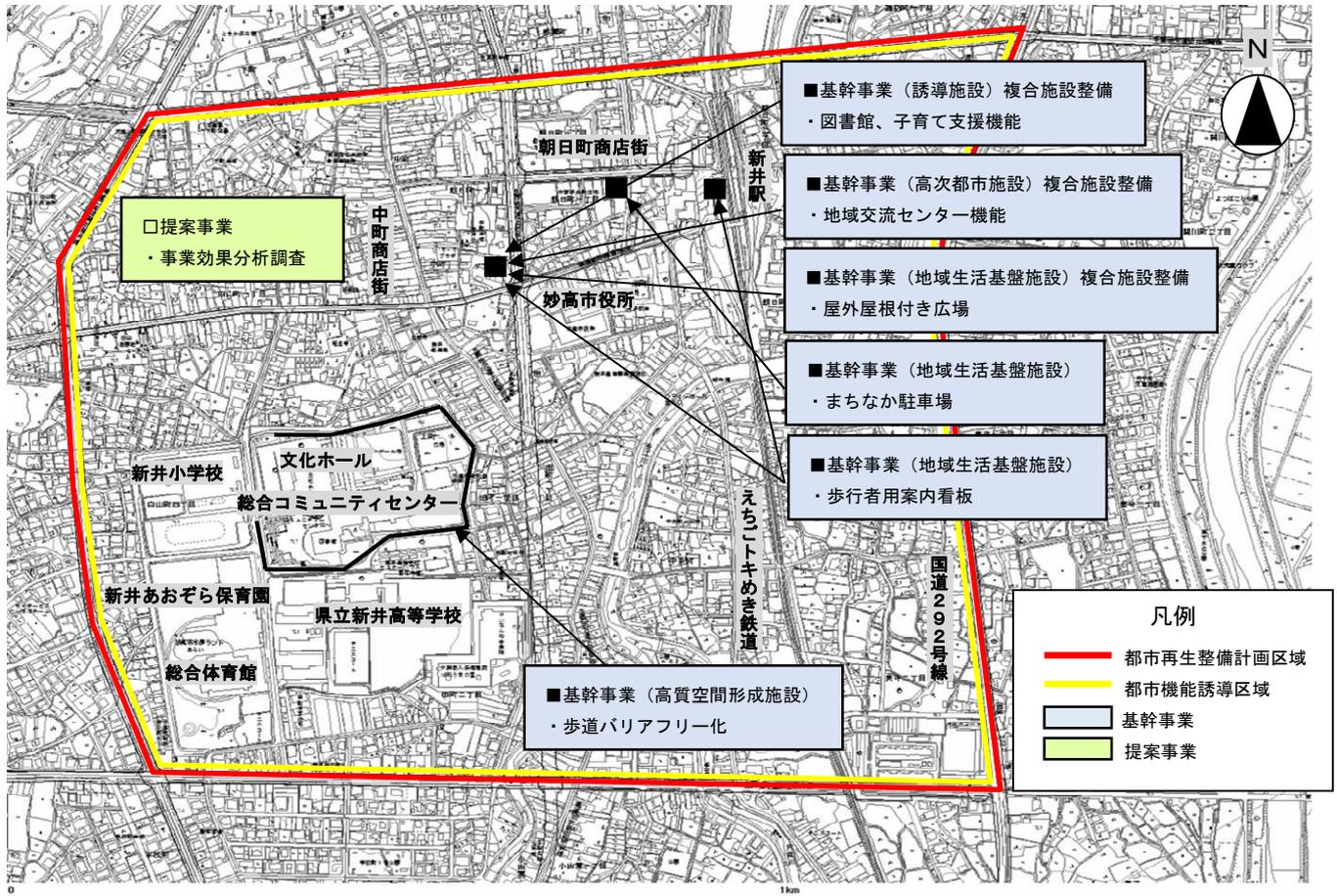
図書館や子育て支援など集客力のある施設を集約整備したことによる効果や、まちなかにぎわいを確認するため、左記の指標とした。

区域内の人口密度	28.3人/ha (H27)	→	28.3人/ha (R8)
区域内の歩行者・自転車通行量	907人/日 (H30)	→	1,100人/ha (R8)
図書館の貸出利用者数	27,477人/年 (H30)	→	42,000人/年 (R8)

事業内容

基幹事業 (2,665.7百万円) → 新図書館等複合施設整備 (延床面積 2,646㎡)、歩道バリアフリー化 (L=710m)
まちなか駐車場整備 (30台分)、歩行者用案内板設置 (3基)

提案事業 (3.0百万円) → 事業効果分析調査



地区の現況と課題

本市では、公共交通の利用促進や定住・交流促進、統合圏整備による子育て環境の充実をはじめ、商業店舗の誘致など、中心市街地の再構築に取り組んでいるが、高齢化や人口減少が進展している、特に活力を生み出す子育て世代及び年少人口の減少により、市を牽引する新井駅周辺地区の維持再生への影響が懸念される。

平成 10 年代に実施した再開発事業により、中心市街地には商業施設や市営集合住宅、アーケードの整備など一定のインフラ整備が進んだが、近接地に集客力のある施設や市民が気軽に滞留できる施設がないため、来街者による街なかの回遊性が乏しく、街なかにおける店舗の撤退や、にぎわいが低下している。

図書館は、幅広い世代の市民が利用する集客力の高い施設であるが、現施設は老朽化の進行とともに施設の規模が小さく、高齢者や障がい者などへの施設的な対応も不十分であるため、市民生活を支える「知の拠点」、「生涯学習の拠点」、「交流の拠点」としての機能を兼ね備えた拠点施設としての整備が求められている。



朝日町商店街



現図書館

(総合コミュニティセンター内の一角に設置)

提案事業の特徴

事業活用調査

新図書館等複合施設整備や歩道バリアフリー化などハード整備が完了した後、事業分析調査を行い、一連の事業が計画地区に及ぼす効果を検証し、今後のまちづくりを検討する。

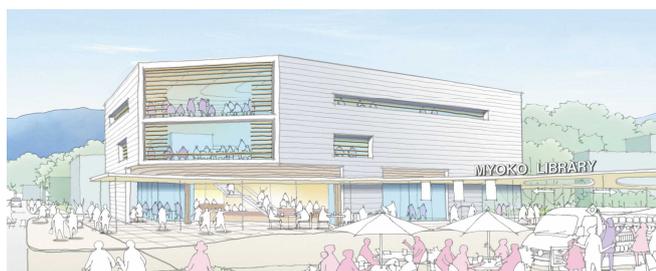
計画策定プロセス

新図書館等複合施設整備事業及び関連する計画等の策定経過

平成 29 年 11 月	妙高市図書館のあり方に関する報告（妙高市図書館あり方検討会）
令和元年 8 月	妙高市図書館整備基本構想策定（妙高市図書館整備検討会）
令和 2 年 3 月	立地適正化計画策定
令和 3 年 3 月	新図書館等複合施設整備計画策定
令和 3 年 4 月	新図書館等複合施設整備に関する地元説明会の開催 新図書館等複合施設設計業務 公募型プロポーザルの実施
令和 3 年 7 月	新図書館等複合施設設計業者の決定
令和 3 年 9 月	設計に係る市民及び図書館関係者との意見交換会の開催
令和 3 年 12 月	複合施設に関する市民アンケートの実施（Web アンケート）
令和 4 年 2 月	設計に係る市民及び図書館関係者との意見交換会の開催
令和 4 年 3 月	新図書館等複合施設建設工事基本設計の完了

今後のスケジュール（予定）

- ・ 令和 4 年度 実施設計の完了
- ・ 令和 5 年度 工事請負契約の締結、着工
- ・ 令和 6 年度 建設工事
- ・ 令和 7 年度 本体供用開始、外構工事
- ・ 令和 8 年度 グランドオープン



新図書館等複合施設

※プロポーザル時点のイメージ